

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： エピゲノム創薬による広汎性発達障害の克服
2. 研究代表者： 萩原正敏（京都大学大学院医学研究科 教授）
3. 中間評価結果

本研究課題は、広汎性発達障害をはじめとする精神神経疾患はエピゲノム制御異常に起因するトランスクリプトーム異常によって惹起されるのではないかとの独自の仮説をもとに、「エピゲノム創薬による広汎性発達障害の克服」を目的とした研究を行っている。広汎性発達障害というチャレンジングな疾患対象を、遺伝子、エピゲノム、iPS 細胞との幅広い観点から解明しようとしている、壮大な計画である。研究チームの構成は学際的であり、臨床医学を含むのみならず、国外との連携や共同研究を進めている。

本研究は、学際的観点ならびに創薬の観点から、他の課題と比べて社会・経済への波及効果も大きい計画となっている。そのため、短期間での研究成果が出にくく評価が難しいが、今後は海外の機関に加え、製薬企業への導出も勘案して頂きたい。

以 上